

『カンタベリ物語』本文の中でチョーサーが初めて使用した ラテン語とフランス語の研究(6)

保谷 一三

これはチョーサーが『カンタベリ物語』本文で初めて借用したラテン語とフランス語の研究である。
今回は(5)に続き, 181. *fume*~216. *inequal* までの36語を扱う。借用の年代は1386年(頃)と確定してお
り, これとフランス語における初出年とを比較し, 借用の早さ, 借用の文化的背景を論じる。その際大
陸のフランス語からか海峡の彼方のフランス語からかによって借用の意味の違いを明らかにする。

キーワード: チョーサー, ラテン語, フランス語, 借用語

181. *fume* *n*¹⁾ (AF)²⁾ B.³⁾ NP.⁴⁾ 4114⁵⁾.

(Swevenes engendren of replecciouns,
And oft of *fume*, of complecciouns,
(Whan humours been to habundant in a wight.)

(大意) (悪) 夢は飽食から生じるのです。またしばし
ば(体液が溜まり過ぎたとき) バランス上発生する蒸気
でしようじるのです。

Greimas⁶⁾によれば OF *fum* déb.XII^s.初出。≪ *fumée*,
vapeur ≫。しかし *fumée* 1175年初出。以後フランス語の
綴りはこれにかわる。一方 Rothwell⁷⁾によれば AF *fum*,
fume “smoke”で, AF 由来にできる。

182. *fumetere* *n* (OF/AF) B. NP.4153.

(A day or two ye shul have digestives
Of wormes, er ye take your laxatyves,)
Of lauriol, centaure, and *fumetere*

(大意) (一日か二日虫の消化薬をお飲みなさい。その
あと下剤をお飲みなさい。) トウダイ草やリンドウやカラ
クサケマン,

Dauzat⁸⁾によれば *fumeterre* 1372年初出。中世ラテン
語である。例文として *fumus terrae parce que...son jus
fait pleurer les jeux comme la fumée* (…その液が煙り
のように目を刺激して涙を出させるので地煙りという)
をあげている。Rothwell では *fumeter(r)e*; *fumitere*
‘*fumitory*’で, 例文として *Fenoil, fumitere en ewe quir-
éz, A seir et au matin le bevréz* (ウイキョウ, カラク
サケマンを煎じ, 朝晩飲みなさい) *Medica 6va* を挙げて
いる。Skeat の Notes⁹⁾によれば ‘*cleanse the blood*’のた
め家庭栽培された *medical herbs* のひとつで, 乾燥させ
てから使用したという。OF/AF とできる。

183. *fumositee* *n* (AF) F. Sq. 358.

Ful were hir hedes of *fumositee*,
(That causeth dreem, of which ther nis no charge.)

(大意) 彼らの頭は(胃袋に入った酒から発生する)
蒸気で充満し, (取り留めのない夢をみた。)

Greimas にはないが, Rothwell では *fumosité* ‘*hot-
headedness*’で, *orgueille* の意味。-ee 綴りから AF とで
きる。

184. *funeral* *a* (L) A. Kn. 2864

(He (=Duc Theseus) wolde make a fyr, in which
thoffice)

Funeral he mighte al accomplice;

(大意) 彼 (=アテネのテセウス王) は(試合場とな
るはずだった林の中で) 火を燃やし, その火で(出場途
中で事故死したアーサイトを焼いて) 葬式を営むことに
した。

Greimas, Rothwell とともにないが, NW¹⁰⁾によれば
late Latin に *funeralis* がある。Dauzat によればこれか
ら葬式の意味の複数名詞 *funeralia* が作られ, 現代仏語
で *funérailles* となっている。Chaucer は late Latin の
funeralis の語尾を取り去って直接に英語化した可能性
がある。

185. *furial* *a* (L) F. Sq. 448

(‘What is the cause, if it be for to telle,)
That ye be in this *furial* pyne of helle?
(Quod Canacee un-to this hauk above.)

(「いったいなぜ——よろしければおこたえください
——)

あなたはこのような地獄の苦しみをお感じなのですか。」
(とプレゼントされた魔法の指輪で嘆きをきいたカナ
シーは頭上の(雌)鷹にきいた。)

Dauzat, Rothwell にはないが, classic Latin には *furi-
alis* があり, Chaucer はこれから直接に英語化した可能
性がある。現代では *furiosus* の系統の *furious* が使われ
る。

186. *fusible* *a* (OF) G. CY. 856.

Oiles, ablucions, and metal *fusible*,

(大意) 油, 洗剤, それに溶ける金属 (もあつかいます。)

Greimas, Rothwell にないが, Dauzat によれば中世ラテン語の *fusibilis* から *qui peut fondre* の意味で *fusible* が XIV^es. に初出している。Chaucer の使用はこれと同時となる。

187. *gabber n* (AF) I. Pars. 85-90

/For as seith seint Isidore: 'he is a laper and a *gabber*, and no verray repentant, that eftsoone dooth thing, for which him oughte repente.'

(大意)/と申しますのは, セビーリアの聖イシドールも言いますように彼 (= 罪つくりの人間) は道化師であり, 漫才師であって, 真に悔いる人間ではないのです。ですから (罪作りな事を言ったすぐ後に) また罪作りな事を言い, しかも悔いる事はありません。/

Greimas によれば OF *gaber* 1080年初出。gabeor XII^e s. *raillieur, plaisantin* の意味。Rothwell によれば AF *gabeur, -eor, -ur*; *gabbur* 'mocker' がある。OF にない *-bb-* の綴りから AF としておく。

188. *gaillard n* (OF/AF) A. Co. 4367.

Gaillard he was as goldfinch in the shawe,

(大意) 彼 (= 徒弟) は森の黄ヒワのようにとても元気だった。

Greimas によれば OF *gaillart*, Rothwell によれば AF *gaillart, -ard* である。F もその後 *-ard* になっている。

189. *Galianes np* (OF/AF) C. Pard. 306

(I prey to god, so save thy gentil cors,
And eek thyne urinals and thy Iordanes),
Thyn Ypocras, and eek *Galianes*,
(And every boist full of thy letuarie;
God bless hem, and our lady seinte Marie!)

(大意) (医者の話が終わると, 旅のリーダーの旅館主は医者と贖罪吏に向かって言った。神様に祈ってあげましょう。あなたのご立派な肉体, またあなたの尿瓶や寝室用便器が堅実でありますように。) あなたのヒポクラテス薬, またゲーラン薬, (またあなたのなめ薬を詰めたすべての箱が堅実でありますように。イエス様, また聖母マリア様, どうかそれらをお守りください。)

Greimas, Rothwell にない。Skeat も *The Riverside Chaucer*¹¹⁾ も Galenus に由来する複数名詞とする。OED によれば *medical drinks named after Galen* である。

190. *gardin-ward adv* (AF) A. Mil. 3572.

(And eek an ax, to smyte the corde two
When that the water comth, that we may go,
And broke an hole an heigh, up-on the gable,)

Un-to the *gardin-ward*, over the stable,
(That we may frely passen forth our way)

(大意) (星占いをする, 次の月曜日の夜中過ぎ大雨があり, ノアの洪水にも匹敵する水で世界が覆われます。だから妻のアリスン, 大工の君, それに坊主の僕のために方舟を三せき作ってください。これを屋根裏につるし, 斧も用意してください。洪水が来たら綱を切り, 切り妻の高い所に穴を開け,) 庭の方へ, 馬屋を越えて (脱出するのです。)

Greimas によれば OF *jardin* 1150年初出。Rothwell によれば AF *gardin, -ein*; *jardin* 'garden'。したがって明らかに AF である。OED によれば古ドイツ語 *gardos* 'enclosure' から俗ラテン語 *gardinum* さらに ONF *gardin* となった。

191. *gardin-wall n* (AF) A. Kn. 1060.

(The grete tour, that was so thikke and strong,
Which of the castel was the chief dongeon,
...

Was evene Ioyant to the *gardin-wal*

(Ther as this Emelye hadde hir pleynges.)

(大意) (若いパラモンとアーサイトの二人を幽閉した大きな塔は厚く堅固で城の天守閣となっておりました。) ... 塔は城内庭園の壁のすぐ近くで, (庭園は美しいエミリーの散策の場所となっておりました。)

Greimas にはないが, Rothwell には *wal, -e* 'wall' がある。OED によれば, L *vallum* から OE *wall* も作られている。

192. *garnison n* (OF/AF) B. Mel. 2525-30

/And understand wel, that the grettteste and
strongeste *garnison* that a riche man may have, as
wel to kepen his persone as hise goodes, is/ that
he be biloved amonges his subgetes and with hise
neighebores./

(大意) そしてお分かりですか。資産家が最も確実強力に資産身柄を守る方法は使用人や近隣の人々に親しまれることなのです。

Greimas によれば OF *garnison* 1213年初出, *for-tresse, défense* の意味。Rothwell によれば AF *garnisun, -ison, etc.* があり, 'garrison' の意味。OED によれば 16th c. から *garrison* がつかわれている。

193. *gigginge v* (AF) A. Kn. 2504.

(Lordes in paraments on hir courseres,
Kightes of retinue, and eek squyeres
Nailing the speres, and helmes bokelinge,
Gigginge of sheeldes, with layneres lacing;

(大意) (君主は鎧の上に豪華な長衣を着て軍馬に跨が

り、家来の騎士や見習騎士は槍に刃をつけたり兜にあごひもをつけたり)楯に編んだ革紐を通したりして、(準備に余念がなかった。)

Greimas にはないが、Rothwell には AF *guige* 'sling of shield'がある。例文として Les *guige erent d'or fil tissu* (楯に通した紐は金の縫り糸だった) *Gui War*11046 がある。この動詞形は OED に記載されている——*gigge*: To fit the *guige* or arm-strap to (a shield)。

194. *gingebreed* *n* (AF) B. Th. 2044.

And roial spicerye
Of *gingebreed* that was ful fyn,
(And lycorys, and eek comyn,
With sugre that is so trye.)

(大意) (騎士トバスの出立というので) さらには特上の香辛料——きめ細かなショウガ粉, カンゾウにクミン, それに極上の砂糖を (用意した。)

Greimas によれば OF *gingibre* finXII^s. 初出。Rothwell によれば AF *gingebred*, *gingebrés*, etc. で、綴りから AF と決定できる。

195. *gyte* *n* (AF) A. Rv. 3954.

(On haly-dayes biforn hir wolde he go
With his tipet bounden about his heed,
And she cam after in a *gyte* of reed ;

(大意) (祭日には粉屋は良家出の妻の先をいつも歩いた、頭巾の垂れを頭に巻きつけて。)妻は赤いガウンを着て後に続いた。

Greimas, Rothwell にはない。Skeat の Notes によると Godfroy に *guite* があり《*chapeau*》の意味、また Roquefort に *wite* があり《*voile*》の意味。もし OF *guite* なら *gyte* は AF 綴りとして可能である。

196. *gowne-clooth* *n* (AF) D. Sum. 2247.

('My lord,' quod he, 'be ye nat yvel apayd ;)
I coude telle, for a *gowne-clooth*,
(To yow, sir frere, so ye be nat wrooth)

(大意) (「ご主人様」と村長の家の小姓は言った。「どうかお怒りにならないでください。')ガウン生地一反とひきかえに (村の男が坊さんに出した尻を等分せよという難題の答えをお話し申し上げます。(お坊さんもお怒りになりませんように。)

Greimas にはないが、Rothwell には AF *gune*, *goune*, *gowne* 'gown' がある。OED によれば *gown* は中世ラテン語 *gunna* 'a garment of fur permitted to elderly or infirm monks' に由来する。しかし OED の *gown* の初例は 13... 年、次例は 1375 年で、Mersand¹²⁾ は間違っている。

197. *Amadrides* *np* (L) A. Kn. 2928.

(Ne how the goddes ronnen up and down,
Disinherited of hir habitacioun
In which they woneden in reste and pees,)
Nymphes, Faunes, and *Amadrides* ;

(大意) (アーサイトの火葬の薪にするために森を伐採したので森にすむ神たちは住まいを奪われて逃げ惑い、平和と平穏は乱された。)ニンフ, ファウヌス, 森の精である。

Greimas, Rothwell にはない。Lewis¹³⁾ によれば L *Hamadryas*, adis 'a wood nymph, hamadryad' の pl. 形である。OED によれば *hama* 'together with' + *drys* 'tree' で、合成語である。

198. *ellebor* *n* (OF/AF) B. NP. 4154.

(A day or two ye shul have digestyves,
Of wormes, er ye take your laxatyves,
Of lauriol, centaure, and fumetere,)
Or elles of *ellebor*, that groweth there,

(大意) (めん鳥妻が雄鶏夫に向かって言った: 一日か二日虫を食べて消化を助けなさい。次ぎに下剤としてトウダイグサ, ヤグルマギク, カラクサケマンをお食べなさい。)さもなければバイケイソウでもお食べなさい。そこに生えていますから。

Greimas にはないが、*lexis* によれば F *ellébore* 1250 年初出。L *helleborum* に由来する。OED は E *ellebore* は c1400 年 Lanfrank's *Science of chirurgie* 初出としているが、これは訂正されなければならない。Rothwell によれば AF *elebre*, *ell-*; *eleborum* 'hellebore' である。OF/AF としておく。

199. *hirnia* *n* (AF) I. Pers. 420-5.

/Allas ! somme of hem shewen the boce of hir shap,
and the horrible swollen membres, that semeth lyk
the maladie of *hirnia*, in the wrappinge of hir
hoses ; /

(大意) / 残念なことに (露出癖のある) あるものは陰茎の膨らみを見せています。また恐ろしく膨れたヘルニアみたいな足もタイツにくるんだ中から見せています。/

Greimas にはないが、Dauzat によれば L *hernia* から F *hernie* となった。Rothwell によれば AF *hernia* で、医学用語: De la maladie ke est apelé h. (ヘルニアと呼ばれる病気について) *chir* 287 r 14 という例文を挙げている。-ir- を異綴りと扱い、AF とする。

200. *heronsewes* *np* (AF) F. Sq. 68

(I wol nat tellen of hir strange sewes,)
Ne of his swannes, ne of hir *heronsewes*.

(大意) (王の誕生日の祝宴にでた珍しい味付けの料理や) 白鳥やアオサギの雛の料理 (については省きましよう。)

Dauzat によれば F héron début XII^es. 初出。Rothwell によれば AF heroncel 'heronshaw, young heron' で、料理関係の例文 le bon h. pur Xii deniers (よいアオサギの雛は12ペンスする) Lib Cust 304 を挙げている。OED によれば OF heronceau, earlier heroncel。AF 説もあるらしい。音のなまり方から AF としておく。

201. exametron *n* (L or GK) B. MK. 3169.

(And they ben versified comunly)

Of six feet, which men clepe *exametron*.

(大意) (そして悲劇の物語は詩のかたちにするときふつう) 6 歩格でヘクサメトロンといいます。

Dauzat によれば hēxamètre milieux XV^es. 初出。Rothwell にはない。Lewis によれば L hexameter, hexametrus. GK hexametros. OED によればこの中性形の hexametron が exametron として 14th c. に使われた。

202. hochepot *n* (OF/AF) B. Mel. 2445.

/but ye han cast alle hir wordes in an *hochepot*, and enclyned your herte to the more part and to the gretter nombre; and ther been ye condescended./

(大意) /それどころかあなたは真の友人の言葉とそうではない友人の言葉を全く無差別に扱い、多数の意見に従いました。あなたはそういうことをしてしまったのです。

Dauzat によれば hochepot fin XIII^es. 初出で、料理の名前。Rothwell によれば AF hochepot は法律用語で 'hotchpot, property in common' の意味。The Riverside Chaucer も a legal term としている。しかし「ごった煮」と言う料理名も生きていると考えられるので OF/AF としておく。

203. omelies *np* (AF) I. Pers. 435-40.

/But of the translacion of Boece de Consolacione, and other bokes of Legendes of seintes, and *omelies*, and moralitee, and devocioun/(of¹⁴) that thanke I oure lord Iesu Crist...

(大意) (世俗の物語についてはお聴きの皆さん方、キリストに罪の許しをお求めください。)しかしボエチウスの『慰め』の翻訳やほかにも聖者傳や説教や道徳論や祈禱(については我らの主イエス・キリスト...にお礼申しあげたいと存じます。)

Greimas にはないが、Dauzat によれば F homélie である。Rothwell では AF omeli, -lie 'homily' がある。したがって AF とする。OED によれば hom- 'together' + ilia 'crowd' の合成語で、説教の意味。Skeat の Notes によれば Chaucer の ABC, Balades on Fortune, Truth, Gentillesse, Lack of Steadfastness など。

204. hostilers *n* (AF) I. Pers. 435-40.

/Or elles whan this folk of lowe degree, as thilke that holden hostelries, sustenen the thefte of¹⁵ hir *hostilers*, and that is in many manere of deceites./

(大意) /あるいはこの低級な君主どもが、旅館主が馬丁の客からの窃盗を手助けしているように(家来による町人の搾取を助長しているような場合です。)それには様ざまな形の詐欺があります。/

lexis によれば PF hôtelier は 1138 年初出。Dans certaines abbayes, religieux chargé de recevoir et de nourrir les hôtes. としている。Rothwell では (h)osteler 'hosteller, inkeeper' である。しかし Skeat の Notes によればこの場合は 'servants attached to the inn' である。綴りから AF としておく。

205. humiliacioun *n* (AF) I. Pers. 480-5.

/The thridde is, whan he rekketh nat thogh men holde him noght worth. The ferthe is, whan he nis nat sory of his *humiliacioun*./

(大意) / (謙譲の徳は四つあり、第一は神の前で自分は無であると心得る事、第二は他人を軽蔑しないこと、) 第三は価値のない人間と扱われても平然としていること、第四は侮辱されても悲しまないことです。/

lexis によれば俗ラテン語 humiliatio から humiliation が 1400 年ころ作られた。Rothwell によると AF humiliacioun である。-ciun と -cioun は AF としては異綴りとなるので AF とできる。

206. ydolastre *n* (OF) I. Pers. 749.

/What difference is bitwixe an *ydolastre* and an avaricious man, ... /

(大意) /偶像崇拝者と欲張りに何の違いがありません。う、(一方はひたすらマホメットを思い、他方はひたすらお金を思っているからです。)/

Dauzat によれば F idolâtre 1265 年初出。キリスト教ラテン語に由来する。GK eidolon < image > + GK latreuein < adorer > で作った。Rothwell にはない。

207. enbibing *n* (L) G. CY. 814.

Resalgar, and our materes *embibing*

(大意) 二硫化ヒ素と物質の吸水

Lewis によれば L imbibo, in- は 'drink in, imbibe' の意味。lexis によれば F imbibere は「湿らす」の意味。Rothwell では enbevrer 「飲ませる」の意味。したがって「吸う」の意味では Chaucer はラテン語から直接に借用したことになる。

208. importable *a* (AF) B. MK. 3792.

(God for his manace him so sore smoot

With invisible wounde, ay incurable,
That in his guttes carf it so and boot)
That his peynes weren *importable*.

(大意) (神は彼アンティオクス王のエルサレム破壊の脅迫にたいして目に見えない, それこそ不治の傷で報復した。腹を激しく刺し貫き,) 痛みで七転八倒した。

Greimas にはないが, Rothwell によれば AF *importable* 'unbearable' で, AF とできる。

209. *imprudent a* (L) B. ML. 309.

Imprudent emperour of Rome, alas!

(大意) (娘クスタンスを異教のサルタンに嫁がせた) 不見識なローマ皇帝の何と悲しいことよ!

Dauzat によれば F *imprudent* 1495年初出。Rothwell にはない。The *Riverside Chaucer* の explanatory notes によれば Chaucer は AF で書かれた source を使っている。この source にあるかは不明なので, 安全な方法として L *imprudens* からしておく。

210. *impudence n* (L) I. Pers. 390-5.

/Ther is Inobedience, ... *Impudence*, Swellinge of herte .../

(大意) 高慢の部類には反抗心があります。…ずうずうしさ, 偉ぶり…/

Dauzat によれば F *impudence* 1500年初出。Rothwell にはない。The *Riverside Chaucer* の explanatory notes によれば, この箇所には an Anglo-Norman analogue がある。この analogue の点検ができないので安全のために L としておく。

211. *impudent a* (L) I. Pers. 395-400.

/ *Impudent*, is he that for his pride hath no shame of his sinnes./

(大意) ずうずうしい人は高慢のあまり自分の罪を恥じません。/

lexis によれば F *impudent* 1500年ころ初出。Rothwell にはない。The *Riverside Chaucer* の explanatory notes によれば 210. と同じことが言える。しかし安全のために L としておく。

212. *inclinacioun n* (AF) D. WB. 615.

(Allas! alas! that ever love was sinne!)

I folwed ay myn *inclinacioun*

(By vertu of my constellacioun;)

(大意) (ああ, ああ, いつでも愛は罪だなんて! 4 人目の夫の葬式の列に加わってくれたわたしの女友達の家の居候の元オックスフォード大学生さんが二十と四十なのに好きになってしまった。) 本当は星の定めだったんです。(ホロスコープのせいなのです。)

Dauzat によれば F *inclinacion* 1220年初出。Rothwell によれば AF *inclinacion* がある。-cioun と綴るのは AF の特徴とみて AF としておく。

213. *inconstance n* (OF/AF) D. Sum. 1958.

Your *inconstance* is your confusioun.

(大意) (地域限定たく鉢僧が立ち寄った家の主に言った。「トマス君, 君の健康のために我ら教団は日夜祈っておるのですぞ。いろんなたく鉢僧にたくさん金を寄進したが少しもよくなならないとおっしゃる。) そんなふうに相手を変えるからよくならんのですぞ。(わしとわしの教団では御不満かな?)

Dauzat によれば F *inconstance* 1220年初出。Rothwell にはない。綴りから OF と AF とともにできる。

214. *indignacion n* (OF/AF) I. Pers. 400-5.

/Contumax, is he that thugh his *indignacion* is agayns everich auctoritee or power of hem that been hise sovereyns.

(大意) 権威不服従の人は向かつ腹を立てて君主の権威権力にすべて反抗する人のことです。

Dauzat によれば F *indignacion* 1120年初出。Rothwell によれば AF に *indignacion*, -cioun がある。綴りから OF, AF のどちらにもできる。しかし OED によれば c1374年の Chaucer *Boeth*, I. PR. iv. 9 に I putte me ageins the hates and indignaciouns of the accuser Cyprian. (わたしは告発者シプリアヌスの憎みと向かつ腹に憤りを覚える。) があり, Mersand は間違っていたことがわかる。

215. *induracioun n* (AF) G. CY. 855.

(And of bodyes mollificacioun,)

And also of hir *induracioun*,

(大意) (言い忘れましたが…物を軟かくすることやまたそれを固くすること (もやっております。))

Greimas によれば OF *induration* 1335年初出。Dauzat によれば 1827年に Acad. méd. によって「硬化症」の意味を定められた。Rothwell にはないが, 綴りから AF とできる。

216. *inequal a* (AF) A. Kn. 2271.

The thridde houre *inequal* that Palamon

(Bigan to Venus temple for to goon,)

(大意) パラモンが (恋の成就のためにビーナスの神殿に詣でた) 夜時間の三時間後, (太陽が昇り, 二人の青年の争奪の相手となったエミリーも起きてダイアナの神殿に上った。)

Dauzat によれば F *inégal* 1361年初出。しかし Rothwell では AF *equal* がある。このことから AF と推定で

きる。

(続く)

文 献

- 1) n は noun を示す。以下品詞の英語名の略語がここにくる。
- 2) AF は Anglo-French を示す。以下語源となる言語の略語がここにくる。
- 3) E. Skeat ed. *The Works of Chaucer* の Volume IV (TEXT) の目次に表示された物語の集団分類記号で、アルファベット順になっている。
- 4) NP. Skeat の TEXT 目次に出る The Nonne Pres-tes Tale の略語。
- 5) 4114. NP. の行番号。何行目であるかを示す。

- 6) Greimas: *Ancien Français* 1968.
- 7) Rothwell: *Anglo-Norman Dictionary* 1992. Fascicles 1-7 完結。
- 8) Dauzat éd.: *dictionnaire étymologique* 1964.
- 9) Volume V
- 10) *Webster's New World Dictionary* Third College Edition.
- 11) *The Riverside Chaucer* 3rd ed. OUP.
- 12) Mersand: *Chaucer's Romance Vocabulary* 1939.
- 13) Lewis: *A Latin Dictionary* OUP.
- 14) The Petworth MS of *Chaucer's Canterbury Tales*. Series I. Chaucer Society Publications. (山梨医科大学図書館所蔵) の of を採用した。読みやすくなる。
- 15) 14) に同じ。この MS では for. 読みの参考になる。

Abstract

A Study of Latin and French Loan Words Which Chaucer First Used in *The Canterbury Tales* except the General Prologue (6)

Katsuzo HOYA

This is the sixth installment of a study of Latin and French loan words which Chaucer first used in *The Canterbury Tales* except the General Prologue. This time I treat the next 36 words, No. 181. fume to No. 216. inequal. The date of the first borrowing is ascertained to be about 1386. The present study compares the date with that of the first recorded appearance in French, and elucidates the rapidity, and the cultural background, of borrowing. Special emphasis is placed on distinguishing the two sorts of French, Continental French and Anglo-French (or Anglo-Norman), thus making clear the nuance of borrowing. (To be continued)

Department of Foreign Languages (English)